

2 0 2 2 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 溪 仁 会

社会福祉法人 溪 仁 会 施設・事業所概要

(令和 5年 4月 1日現在)

【介護老人福祉施設】 (特別養護老人ホーム)

○西円山敬樹園

札幌市中央区円山西町4丁目3番20号

事業開始年月日 昭和57年 4月10日
入 所 定 員 123名 (短期入所生活介護14名)
付 帯 事 業 認知症対応型共同生活介護 (27名)
訪問介護・介護予防センター
小規模多機能型居宅介護 (登録18名)

○月寒あさがおの郷

札幌市豊平区月寒西1条11丁目2番35号

事業開始年月日 平成23年 8月 8日
入 所 定 員 84名 (短期入所生活介護4名)
付 帯 事 業 通所介護 (一般型35名)

○岩内ふれ愛の郷

岩内郡岩内町字野東69番地の4

事業開始年月日 平成24年 4月 1日
入 所 定 員 50名 (短期入所生活介護10名)

○きもべつ喜らめきの郷

虻田郡喜茂別町字伏見272番地の1

事業開始年月日 平成25年 6月 1日
入 所 定 員 80名
付 帯 事 業 訪問介護

○手稲つむぎの杜

札幌市手稲区前田2条10丁目1番7号

事業開始年月日 平成26年 6月 1日
入 所 定 員 80名 (短期入所生活介護10名)
付 帯 事 業 通所介護 (一般型65名)・居宅介護支援・介護予防センター
通所介護 (認知症対応型12名)・特定相談支援
小規模多機能型居宅介護 (登録29名)

【地域密着型介護老人福祉施設】

○菊水こまちの郷

札幌市白石区菊水上町4条3丁目94番地64

事業開始年月日 平成19年 7月 1日
入 所 定 員 29名
付 帯 事 業 小規模多機能型居宅介護 (登録29名)
サテライト型小規模多機能型居宅介護 (登録18名)

○るすつ銀河の杜

虻田郡留寿都村字留寿都186番地95

事業開始年月日 平成26年 4月 1日
入 所 定 員 29名
付 帯 事 業 通所介護（地域密着型10名）・居宅介護支援

【軽費老人ホーム】（ケアハウス）

○カームヒル西円山

札幌市中央区円山西町4丁目3番21号

事業開始年月日 平成 8年 4月 1日
入 所 定 員 100名（特定施設入居者生活介護 含む）

【介護老人保健施設】

○コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号

事業開始年月日 平成 元年 4月10日
入 所 定 員 100名（短期入所療養介護 含む）
付 帯 事 業 通所リハビリテーション（55名）
訪問介護・居宅介護支援・訪問リハビリテーション
地域包括支援センター・介護予防センター
短期入所生活介護（19名）
認知症対応型共同生活介護（18名）
小規模多機能型居宅介護（登録29名）

○コミュニティホーム八雲

二海郡八雲町栄町13番地1

事業開始年月日 平成10年 4月28日
入 所 定 員 90名（短期入所療養介護 含む）
付 帯 事 業 通所リハビリテーション（45名）
居宅介護支援・訪問リハビリテーション・訪問介護

○コミュニティホーム美唄

美唄市東5条南7丁目5番1号

事業開始年月日 平成12年 4月14日
入 所 定 員 80名（短期入所療養介護 含む）
付 帯 事 業 通所リハビリテーション（55名）・訪問リハビリテーション

○コミュニティホーム岩内

岩内郡岩内町字野東69番地の26

事業開始年月日 平成19年 4月10日
入 所 定 員 100名（短期入所療養介護 含む）
付 帯 事 業 通所リハビリテーション（50名）・訪問リハビリテーション
地域包括支援センター・訪問看護・居宅介護支援

【在宅複合施設】

○美唄市東地区生活支援センターすまいる

美唄市東4条南5丁目1番4号

事業開始年月日 平成11年 4月 1日

実施事業 通所介護（一般型25名）・訪問介護・居宅介護支援
ライフサポートアドバイザー・福祉入浴

○青葉ハーティケアセンター

札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号

事業開始年月日 平成11年12月 1日

実施事業 通所介護（一般型40名）・居宅介護支援・訪問看護
小規模多機能型居宅介護（登録29名）
児童デイサービス（10名）

○円山ハーティケアセンター

札幌市中央区北1条西19丁目1番地2

事業開始年月日 平成21年 4月 1日

実施事業 通所介護（一般型80名）・居宅介護支援

【認知症対応型共同生活介護】（グループホーム）

○グループホーム白石の郷

札幌市白石区本郷通3丁目南1番16号

事業開始年月日 平成12年10月10日

入所定員 18名（1ユニット9名×2）

○グループホーム西円山の丘

札幌市中央区円山西町4丁目3番21号

事業開始年月日 平成14年 7月 1日

入所定員 27名（1ユニット9名×3）

【通所介護】

○デイサービスセンターすまいる

美唄市東4条南5丁目1番4号

事業開始年月日 平成11年 4月 1日

通所定員 一般型25名

○あおばデイサービスセンター

札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号

事業開始年月日 平成11年12月 1日

通所定員 一般型40名

○円山溪仁会デイサービス

札幌市中央区北1条西19丁目1番地2

事業開始年月日 平成21年 4月 1日

通所定員 一般型80名

○手稲溪仁会デイサービスつむぎ
事業開始年月日 平成21年 4月 1日
通所定員 一般型65名
札幌市手稲区前田2条10丁目1番7号

○月寒あさがおの郷デイサービスセンター
事業開始年月日 平成23年 8月 8日
通所定員 一般型35名
札幌市豊平区月寒西1条11丁目2番35号

○手稲溪仁会デイサービス織彩
事業開始年月日 平成26年 7月 1日
通所定員 認知症対応型12名
札幌市手稲区前田2条10丁目1番7号

○るすつ銀河の杜デイサービスセンター
事業開始年月日 平成27年 4月 1日
通所定員 地域密着型10名
虻田郡留寿都村字留寿都186番地18

【訪問介護】

○西円山敬樹園ホームヘルプステーション
事業開始年月日 平成 6年10月 1日
札幌市中央区円山西町4丁目3番20号

○コミュニティホーム白石ホームヘルプステーション
事業開始年月日 平成 7年10月 1日
札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号

○ホームヘルプステーションすまいる
事業開始年月日 平成11年 4月 1日
美唄市東4条南5丁目1番4号

○コミュニティホーム八雲ホームヘルプステーション
事業開始年月日 平成25年 4月 1日
二海郡八雲町栄町13番地1

○ケアセンターこころようてい
事業開始年月日 平成25年 4月 1日
虻田郡喜茂別町字伏見272番地の1

【訪問看護】

○訪問看護ステーションあおば
事業開始年月日 平成15年 4月 1日
札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号

○訪問看護ステーション岩内
事業開始年月日 平成22年10月 7日
岩内郡岩内町字野東69番地の26

【訪問リハビリテーション】

- コミュニティホーム八雲訪問リハビリテーション 二海郡八雲町栄町13番地1
事業開始年月日 平成24年 8月 1日
- コミュニティホーム白石訪問リハビリテーション 札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号
事業開始年月日 平成25年 5月 1日
- コミュニティホーム美唄訪問リハビリテーション 美唄市東5条南7丁目5番1号
事業開始年月日 令和 3年10月 1日
- コミュニティホーム岩内訪問リハビリテーション 岩内郡岩内町字野東69番地の26
事業開始年月日 令和 3年10月 1日

【小規模多機能型居宅介護】

- 小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94番地64
事業開始年月日 平成19年 7月23日
登録定員 29名
- 小規模多機能型居宅介護あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号
事業開始年月日 平成28年 9月 1日
登録定員 29名
- サテライト型小規模多機能ホームるびなす 札幌市白石区東札幌5条3丁目2番地32号
事業開始年月日 平成31年 4月 1日
登録定員 18名
- 小規模多機能型居宅介護つむぎ 札幌市手稲区前田3条9丁目2番7号
事業開始年月日 令和 元年10月 1日
登録定員 29名
- 小規模多機能型居宅介護白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1番16号
事業開始年月日 令和 3年10月 1日
登録定員 29名
- 小規模多機能型居宅介護西円山の丘 札幌市中央区円山西町4丁目3番21号
事業開始年月日 令和 4年 3月 1日
登録定員 18名

【居宅介護支援】

- 居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号
事業開始年月日 平成12年 4月 1日

○居宅介護支援事業所やくも	二海郡八雲町栄町13番地1
事業開始年月日 平成12年 4月 1日	
○居宅介護支援事業所すまいる	美唄市東4条南5丁目1番4号
事業開始年月日 平成12年 4月 1日	
○指定居宅介護支援事業所あおば	札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号
事業開始年月日 平成12年 7月 1日	
○溪仁会在宅ケアセンターつむぎ	札幌市手稲区前田2条10丁目1番7号
事業開始年月日 平成21年 4月 1日	
○ケアプランセンターさつき	岩内郡岩内町字野束69番地の26
事業開始年月日 平成24年 5月 1日	
○ケアプランセンターころもるやま	札幌市中央区北1条西19丁目1番地2
事業開始年月日 平成24年 7月 1日	
○ケアプランセンターころようてい	虻田郡留寿都村字留寿都186番地18
事業開始年月日 平成29年 1月 1日	
【介護予防支援】	
○札幌市白石区第1介護予防支援事業所	札幌市白石区本通4丁目北6番1号
事業開始年月日 平成18年 4月 1日	
○岩内町介護予防支援事業所	岩内郡岩内町字野束69番地の26
事業開始年月日 平成20年 4月 1日	
○札幌市白石区第3介護予防支援事業所	札幌市白石区本通17丁目南5番12号
事業開始年月日 平成25年 4月 1日	
【地域包括支援センター】（札幌市・岩内町からの受託事業）	
○札幌市白石区第1地域包括支援センター	札幌市白石区本通4丁目北6番1号
事業開始年月日 平成18年 4月 1日	
○岩内町地域包括支援センター	岩内郡岩内町字野束69番地の26
事業開始年月日 平成20年 4月 1日	

○札幌市白石区第3地域包括支援センター
事業開始年月日 平成25年 4月 1日

札幌市白石区本通17丁目南5番12号

【LSA】（美唄市からの受託事業）

○美唄市高齢者世話付住宅生活援助員派遣
事業開始年月日 平成11年 4月 1日

美唄市東4条南5丁目1番4号

【介護予防センター】（札幌市からの受託事業）

○札幌市中央区介護予防センター円山
事業開始年月日 平成18年 4月 1日

札幌市中央区円山西町4丁目3番20号

○札幌市中央区介護予防センター曙・幌西
事業開始年月日 平成18年 4月 1日

札幌市中央区円山西町4丁目3番20号

○札幌市白石区介護予防センター白石中央
事業開始年月日 平成18年 4月 1日

札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号

○札幌市手稲区介護予防センターまえだ
事業開始年月日 平成21年 4月 1日

札幌市手稲区前田2条10丁目1番7号

【特定相談支援】

○相談室ころていね
事業開始年月日 平成25年 1月 1日

札幌市手稲区前田2条10丁目1番7号

【障害児通所支援】

○児童デイサービスぱぷりか
事業開始年月日 令和 2年 8月 1日

札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号

【自主事業】

○美唄市福祉入浴
事業開始年月日 平成17年 5月 1日

美唄市東4条南5丁目1番4号

○事業所内保育所ゆいまーる
事業開始年月日 平成23年11月 1日

岩内郡岩内町字野東69番地の26

2022年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

2022年度は①安定経営②人材の確保と成長③業務改善④地域との共生の4点を重点課題として取り組みを行ってきました。まず、経営面では、入所部門において新型コロナウイルスへの感染拡大により職員やその家族の感染により人員が不足し日々のケアや円滑な新規受け入れに支障をきたすことが多くありました。更に12月にはクラスターも発生し、収益に多大な影響を及ぼしました。この事は訪問介護でも同様で職員、ご利用者の感染判明により稼働率が大きく低下しました。小規模多機能型居宅介護事業においては事業開始間もないことや、地域へPRを効果的に行えていないため、年間通じて予算との大幅な乖離が生じました。グループホームにおいては、年間を通じてほぼ目標値通りの安定した運営となりました。

人材面では、ブロック内の全事業で職員採用が困難な状況が続き、入所部門では看護師の欠員を補充できずに短期の派遣職員で日々の業務を行っている状況でした。更に、小規模多機能型居宅では介護職員の採用ができず、人員不足のために受け入れ定員増加の変更も難しい状況でありました。このような人材確保が困難な状況であるため、入所部門では継続して外国籍人材を積極的に採用し、定着のため、個別のサポートや技術向上を目指した取り組みを行います。

業務改善の面では今年度、介護ソフトの変更に伴い、見守りセンサーやインカムの導入を行い、ICT化に合わせた業務の改善へ取り組みを実施してきました。しかし、目標通りの改善には至らず、課題を次年度へ持ち越した形になりました。新年度も継続した取り組みを行ってまいります。

地域活動については、新型コロナウイルスの感染拡大により、十分な活動ができないまま年度を終える事となりました。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

「経営改善会議」を継続して定例化し、稼働率や収益単価改善のための検討、介護業務効率化についての協議を実施。コロナの感染対策等による人員不足により未実施の案件もあり、引き続き協議を行って行く。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・小多機・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘>

・医師：2名（内非常勤2名）看護職員：12名（内非常勤3名）
 ・介護職員：80名（内非常勤5名）生活相談員：4名（内施設CM兼務3名）
 ・介護支援専門員：4名介護予防：4名
 ・作業療法士：2名言語聴覚士：0名
 ・理学療法士：1名（内非常勤1名）管理栄養士：3名（内兼務1名）
 ・常勤ヘルパー：5名非常勤ヘルパー：26名（非常勤）
 ・事務職員他：11名
 ・合計職員数：154名（内非常勤37名）

○2022年度職員異動状況（常勤職員）

・採用：22名（看護職員：4名、介護職員：12名、リハ職員：1名、予防C：1名、CM：2名、小多機：2名）
 ・退職：18名（看護職員：3名、介護職員：10名、リハ職員：1名、予防C：1名、CM：1名、事務職員：1名、訪問介護：1名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修（施設職員参加状況）

・敬樹園：20回、小多機：7回、訪問介護：1回、介護予防：7回
 ・西円山の丘：9回

○内部研修（施設職員参加状況）

・入所：事故防止 2回 感染予防 2回 抑制廃止／高齢者虐待防止 2回
 褥瘡予防 1回 緊急災害 2回
 ・その他：新人職員研修 3回 理念の浸透・運営方針 1回 個人衛生 1回
 施設サービス計画 1回 看取り研修 1回 ハラスメント研修 1回
 メンタルヘルス 1回
 ・敬樹園：9回、小多機：45回、訪問介護：9回、介護予防：8回
 ・西円山の丘：13回

2022年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>44,165 人</u>	<u>42,099 人</u>
一日平均入所者数	<u>121.0 人</u>	<u>115.3 人</u>
入所待機者	<u>58人 (3月末現在)</u>	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.95</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,460 人</u>	<u>0 人</u>
一日平均入所者数	<u>4 人</u>	<u>0 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 0</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>9,334 回</u>	<u>6,433 回</u>
(介護保険外)		<u>6,274 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>30.2 回</u>	<u>20.6 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.3</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】 (円山)

延相談件数 63 件

相談内容 (重複有)

介護保険制度: 19 件 権利擁護: 0 件 高齢者虐待: 0 件

介護予防: 17 件

その他: 38 件 (認知症・心身の健康・住まい・保健福祉等)

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数 (延べ)
介護予防教室	<u>192回</u>	<u>1,541 人</u>

(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)

転倒予防 163回 栄養改善 23回 口腔機能向上 68回

閉じこもり予防 4回 認知症予防 150回 疾病予防 2回

その他の介護予防 37回 (体力測定等)

研修会・講演会・相談会 11 回 104 人

その他 72 回 909 人

広報物発行 15 回 3,608 部

【介護予防センター】 (曙・幌西)

延相談件数 37 件

相談内容 (重複有)

介護保険制度: 16 件 権利擁護: 0 件 高齢者虐待: 0 件

介護予防: 4 件

その他: 28 件 (認知症・心身の健康・住まい・保健福祉等)

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数 (延べ)
介護予防教室	<u>145回</u>	<u>2,340 人</u>

(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)

転倒予防 140回 栄養改善 4回 口腔機能向上 12回

閉じこもり予防 2回 認知症予防 110回 疾病予防 6回

その他の介護予防 12回 (体力測定等)

研修会・講演会・相談会 0 回 0 人

その他 124 回 1,299 人

広報物発行 9 回 1,606 部

2022年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

	目 標	実 績
延入所者数	9,740 人	9,671 人
一日平均入所者数	26.7 人	26.5 人
入所待機者	20 人 (3月末現在)	
要介護度状況	: 平均要介護度 2.36	
協力医療機関	: 1. 札幌西円山病院	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員18名（通い定員9名、宿泊3名）】

	目 標	実 績
延登録者数	7,661 人	4,081 人
※延通い利用者数		1,338 人
※延宿泊数		1,939 人
※延訪問数		161 人
一日平均登録者数	21 人	11.1 人
要介護度状況	: 平均要介護度 1.8	

2022年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

北海道内での新型コロナウイルス感染症初確認から3年が経ち、この間基本的な感染対策は定着してきました。昨今のウイルス特性を踏まえ、現状の感染症分類「2類相当」から「5類」への引き下げが決定し、私たちも3年前の日常を思い返しなが、これまでの日常を取り戻していくといった気持ちや考え方の変革が求められてきます。ただしウイルスの特性には大きな変化がないと考えられるため、基本的な感染対策は継続していく必要があります。

2022年度におきましては、「withコロナ」を前提としたサービスの提供に努めてまいりましたが、オミクロン株による感染拡大の影響から来る利用控えに加え、クラスターの発生と対応、更には物価の高騰や水道光熱費の値上げ等、経営的にも大きな代償を負うこととなってしまいました。しかしながらマンパワーが充足されない中、他施設からの応援をいただき、クラスターの発生を全職員で乗り越えて、多くの経験値を積むことが出来ました。これを糧に、今一度特養としての役割、機能を再認識していくとともに、原点回帰して当施設での第2ステージとして再出発していくこととしたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>施設運営会議（毎月第4火曜日、参加者：管理者・各部署責任者）毎月の経営状況における課題等について協議

○実績（延利用者数 等）

・特養：収益達成率95.3% 稼働率94.7% 新規21名、退居25名（うち看取り13名） 延入院日数954日
収益達成率・稼働率ともに前年度対比減少 看取り件数倍増 延入院日数前年度対比+287日

・短期：収益達成率33.3% 稼働率32.5% 実利用者9名（DSとの併用利用者3名）※2023年3月末
特養ユニット内併設における感染拡大の影響による受け入れ制限等によるもの。

・通所：収益達成率82.3% 稼働率78.9% 新規22名、体験34名、中止31名 要介護度比率平均64.1%
収益達成率・稼働率ともに前年度対比増加 下期よりサービス提供時間の変更（短縮）を行うも、感染者の発生や感染対策の強化から利用控え及び体験利用者が少なく推移した。

○加算取得（算定）状況

・通所：入浴介助加算Ⅱ（7月分より）

○費用

・人件費：介護・看護職員の未補充分による減少（執行率94.9%）
・事業費・事務費：利用者数減に伴う食材費減少も水道光熱費及びコロナ対策関連備品等購入分による増加

<今後の展開>

特養の4床増床(84床)に伴う経営の立て直しと、人財確保の同時進行を最優先とし、介護DXをベースとした積極的な業務改善に努めてまいります。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況【合計職員数90名】

特養・短期：管理者1名、嘱託医1名、看護職員6名、介護職員40名（内非常勤8名）、生活相談員2名、介護支援専門員1名
作業療法士1名、栄養士2名、事務職員4名（内施設管理員1名）、介護アシスタント11名

通所：管理者1名、生活相談員1名（介護職員兼務）、介護職員8名（内非常勤1名）、看護師3名（内非常勤2名）
運転手4名、介護アシスタント2名

○2022年度職員採用・退職等状況

採用（転入）：24名【介護職員16名（内通所3名）、看護師2名（内通所1名）、介護アシスタント5名（内外国人留学生2名）他】
退職（転出）：15名【介護職員14名（内通所1名）、運転手1名】

※1年を通して「常勤職員の退職」と「非常勤職員の採用」が多くなっており、常勤換算数とパワーバランスに影響を及ぼした。
また、ユニットにおいて12月より他施設から2名の応援を現在も継続していただいている。

4. 研修参加・実施状況

○内外研修参加・実施状況（法人本部・溪仁会グループ研修含む）：延参加者111名

各階層別（新人・リーダー層 管理職等）、メンタルヘルス、ハラスメント研修等の参加

施設内感染対策研修「特養での標準予防策について」講師：北海道がんセンター I C N 他札幌市保健所からの研修を受講

※一時対面が再開された時期もありましたが、感染状況によりオンライン開催が中心でした。I C Nからの研修については大変効果的であったように思われます。

○実習等受入実施状況

介護専門学校（三幸・せいとく・大原）、光塩短大（栄養士）、北海道医療大学（認知症看護分野認定看護師）

札幌市内高等学校（山の手・東陵）フィールドスタディ 等

※実習生受け入れ期間（予定）中に、職員による感染が発生し、また実習生の感染が判明するなど、実習の延期や他施設への実習施設要請を行いつつ、可能な限りの受け入れに努めてまいりました。

2022年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	29,021 人	27,491 人
一日平均入所者数	79.5 人	75.3 人
入所待機者	71 人 (3月末現在)	
要介護度状況	： 平均要介護度 3.85	
協力医療機関	： 1. 勤医協月寒ファミリークリニック	
	2. 定山溪病院	
	3. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり	

【短期入所生活介護：定員8名】

	目 標	実 績
延入所者数	2,190 人	711 人
一日平均入所者数	6.0 人	2.0 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.4 (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型45名】

	目 標	実 績
延利用者数	7,438 人	5,867 人
一日平均利用者数	29.0 人	22.7 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.5 (要支援1・2を除く)	

2022年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

コロナ禍で利用者・家族に大変な迷惑・不便をお掛けした1年であった。特に4月末に介護職員1名が新型コロナに感染し、5/16までに入居者46名、職員21名、合計67名が感染しました。入居者3名は入院しましたが、他の入居者、職員とも軽症もしくは無症状で重篤化する事無く、5/27に終息する事ができた。その間、医材関係等の物的支援と他施設から7名（他施設6名・本部1名）コミ岩内から9名の応援職員があり、現場に入っていただき大変助かり感謝したい。コロナ禍での対応で職員が感染し欠勤が多く続き施設運営の大変さを実感した年でもあった。だからこそ、より効果的な感染予防対策、離職防止対策・業務見直し等を推進していく必要がある。また、コロナ禍であるからこそ家族や地域住民との情報共有も促進していきたい。

1. 職員確保については、配置基準は満たしているものの介護職員数不足が深刻である。今後もコミュニティホーム岩内と連携し職員異動及び採用を継続して実施していく。
2. 入所においては一日平均入所者数48、4名と目標数を達成する事ができなかった。
3. 短期入所生活介護に関しても一日平均入所者数8、33名で目標数を達成する事ができなかったが、今後も老健・居宅（さつき）との連携を図りサービス提供をしていきたい。
4. コロナ禍で、家族や地域との交流が出来ていない。2019年から実施している「ふれあいカフェ（認知症カフェ）」等はコロナが終息後に定期的に実施し交流を深めていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. コミュニティホーム岩内と合同で実施している「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」を月1回開催し検討課題等を情報共有することで透明性の保持や可視化することができている。
2. 岩内ふれ愛の郷単独で役職者会議・職員全体会議を月1回実施。職員会議では、現場での検討課題を中心に議論。

<成果>

- ・ 6月以降、定期的に短期入所生活介護を利用していただくよう対応できた。
- ・ 一体経営に向けてふれ愛・コミ岩の職員異動等も昨年より効率的に実施できた。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率などの目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 長期にわたり人材不足が続いていることは喫緊の課題である。効果的な募集・離職防止対策等を推進していきたい。
- ・ 科学的介護情報システム「LIFE」対応のため業務改善を進めていく。
- ・ コロナ禍であり改めて、感染症含め、自然災害・介護事故におけるリスク管理の強化を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況

管 理 者： 1名	医 師： 1名（非常勤）	介 護 職 員： 18名（内非常勤 1名）
看 護 職 員： 4名	管 理 栄 養 士： 1名	事 務 職 員： 3名（内非常勤 1名）
相 談 職 員： 2名	介護支援専門員： 1名	介 護 補 助： 9名（内非常勤 9名）
日直・運転手： 3名（非常勤）		合 計： 43名（内非常勤15名）

○2022年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：12名【介護職員10名 看護職員 1名 相談職員 1名】
 転入：2名【事務職員 1名 看護職員 1名】（コミ岩から）
 退職：13名【介護職員10名 看護職員 2名 相談職員 1名】
 応援：2名【介護職員 2名（コミ八雲1名：3/1～6/30、青葉1名：7/1～7/31）】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援主催研修含）

延参加者数28名（2021年度18名より10名増）
 認知症介護者研修（Web）、感染症研修（岩内保健所）、口腔ケア・排泄ケア研修（Web）、その他
 溪仁会グループ主催研修会、その他法人本部研修

○施設内研修開催回数9回（2021年度より回数減）

フェードバック（虐待予防）研修、リスクマネジメント研修、嘔吐物（感染予防）処理研修、防災研修、看取り研修
 接遇研修、感染対策研修、虐待防止研修、事例検討会、その他

○岩内コミュニティの丘合同研修開催回数11回

介護現場におけるリスクマネジメント研修、オムツのあて方研修、その他

2022年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18,250 人</u>	<u>17,725 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>48.4 人</u>
入所待機者	<u>1 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.01</u>	
協力医療機関	: <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,471 人</u>	<u>3,048 人</u>
一日平均入所者数	<u>9.5 人</u>	<u>8.33 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.78</u> (要支援1・2を除く)	

2022年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

きもべつ喜らめきの郷は、入所定員80名で1日平均利用者数は、上半期75.0名、下半期76.6名、年間75.8名で、予算78.0名、るすつ銀河の杜は、入所定員29名で1日平均利用者数は、上半期26.7名、下半期28.0名、年間27.4名と2施設とも目標未達であった。特に、るすつは、新型コロナウイルス感染症のクラスターにより約1ヶ月間新規入居者をストップすることになり大きく影響を受けた。ただ、きもべつ26名、るすつ10名の新規入居者を受け入れることが出来た。この背景には生活相談課の営業とケアプランセンターこころようてい（居宅支援事業所）との連携がスムーズに行った結果であった。今後も新規入居者に繋がるよう連携していきたい。医師については、2021年度に喜茂別町立クリニックの指定管理者の変更があり週末不在で病状不安定の入居者の受入れが困難で課題の一つになっている。介護職員は、過度な人手不足で来年度に向けて新規受入れに課題を残す形になった。介護職員の離職は歯止めがきかず特に外国人特定技能の職員の定着が困難であった。反面外国人技能実習は一定の定着があった。人員確保は経営上の最優先課題であることは明確であり外国人に頼らざるを得ない。次年度も引き続きの外国人の採用を継続し札幌市内と地方の職員の交流を引き続き検討したい。

2023年4月現在、技能実習生7名、特定技能職員2名、合計9名の外国籍介護職員が在籍しており、きもべつで7名、るすつで2名が勤務している。技能実習生が介護職員としての戦力になりつつあり期待したい。今後は、特定技能職員の採用、マネジメントを充実させていきたい。

在宅部門においては、居宅介護支援は、俱知安町内のニーズがあり拡大していく予定。通所介護は、留寿都村の補助金があるが予算は未達に終わった。訪問介護は、担い手がおらずほぼ職員1人での業務になっており、在宅部門に於いても人手不足が顕著となっている。短期入所は、喜茂別町のニーズに応え稼働しており空きベッドの利用となっている。2023年度においても各事業所間の連携を強化し、在宅サービスの充実を図る。

地域活動についてはコロナの影響でほとんど実施されなかったが、喜茂別町の委託事業（介護予防）に関しては予定通り実施できた。

施設運営の基盤固めでICT化に向けたソフト（ほのぼの）導入、補助金を利用した介護ロボットの導入が出来、2023年度に向け本格的な活用を目指す。

きもべつ・るすつ合わせて18名の方を看取った。コロナ過での面会制限はあったが、家族との面会も行いご満足頂ける結果になった。経営的には水道光熱費の高騰で収支に大きな影響があった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3水曜日（16：30～）開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務と改善

- ・経過記録等のPC入力
- ・効率的な勤務シフト及び部署間連携の検討

2) 各種加算の算定（両施設）

- ・LIFEに関する加算の算定
- ・看取り介護加算（きもべつ15名、るすつ3名）算定。

3) 費用等の見直し

- ・電気使用についての効率化（入浴時）。

4) その他

- ・人財確保策として、外国人特定技能の受け入れ態勢の確保と職員研修の充実、職員確保のための更なる住宅等の体制の整備を実施。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況 総職員数98名（きもべつ66名、るすつ32名）

非常勤医師3名、看護職員9名（非常勤1名）、介護職員64名（非常勤10名）、介護支援専門員2名

生活相談員6名、管理栄養士2名、訪問介護員2名、事務職員他10名（非常勤2名）

○2022年度職員異動状況

採用：12名【介護職員11名（正職員2名、契約8名、非常勤1名）、看護職員1名】

退職：9名【介護職員8名（正職員3名、契約4名、非常勤1名）、管理栄養士1名】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修参加回数：6回延216名参加

リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇等

○外部研修参加回数：きもべつ17回延23名参加、るすつ10回延10名参加

認知症介護実践者研修、介護職員実務者研修、技能実習責任者講習 後志老協研修、湊仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的オンラインでの研修の受講

2022年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名（短期入所込み）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,470 人</u>	<u>27,626 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.0 人</u>	<u>75.8 人</u>
入所待機者	<u>5 人（3月末現在）</u>	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.43</u>	
協力医療機関	1. <u>喜茂別町立クリニック</u> 2. <u>定山溪病院</u> 3. <u>洞爺温泉病院</u> 4. <u>喜茂別歯科</u> 5. <u>ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>612 回</u>	<u>187 回</u>
（総合事業）		<u>262 回</u>
（障がい）		<u>248 回</u>
（制度外）		<u>1 回</u>
一日平均利用回数（介護保険・総合事業）	<u>0.7 回</u>	<u>1.0回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.00</u> （要支援1・2を除く）	

2022年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,403 人</u>	<u>10,042 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.5 人</u>
入所待機者	<u>3 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.24</u>	
協力医療機関	: <u>1. 留寿都診療所</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 留寿都歯科診療所</u>	

【通所介護：地域密着型10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,804 人</u>	<u>1,039 人</u>
一日平均利用者数	<u>7.4 人</u>	<u>4.42 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.66</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>625 件</u>	<u>594 件</u>
(うち介護予防)		<u>26 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.71</u> (要支援1・2を除く)	

2022年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

〇2022年度の総括

開設9年目を迎えた2022年度は、新型コロナとの共存を意識し、法人経営基本方針である『経営の在り方』、『福祉人材の在り方』、『サービスの在り方』、『地域社会への在り方』、『法人、施設の在るべき姿』を全職員が共有し、事業の着実な推進に取り組んだ。

経営においては、4月より新たな加算算定を開始し単価上昇に努めたが、年度当初より陽性者発生や出勤制限等による在宅事業の一部縮小、営業休止、11月には入所で初めてクラスターが発生。コロナ対応3年目において運営、経営共に最大の打撃を受けた。特に入所においては、クラスター終息後よりご入居者の看取り件数が急増。また、水道光熱費、物価高騰による値上げ等での支出も増加し、予算を大きく乖離する厳しい結果となった。

人材においては、日頃からの風通しの良い組織づくりや職員間の接遇意識向上等の取り組みを行ったが、今年度も年齢や病気等やむを得ない理由での離職者が多く結果的に昨年度より若干増加した。新規採用が一層難しく、特に看護師の確保に苦戦、紹介会社の力を借りる結果となった。

サービスにおいては、下半期より介護ソフト変更に伴う業務内容の見直し等に着手できたが、有効活用には至らず精度向上を含め次年度以降継続対応。その他、入所において施設ケア部長の交代によるサービス提供方法の見直しを図ったが、不十分のまま再交代となった。

地域においては、年度当初の計画どおりとはならず、感染状況をみながら一部で新たな取り組みは実施できたが限定的なものとなった。施設の在るべき姿は、「つむぎプロジェクト」で活発な意見交換を行うことができ、次年度以降も法人未来プロジェクトとリンクしながら中長期的な運営を検討していきたい。

以上、今年度においては経営、運営面での未達成項目が多く残り、人員体制も不安定な状況と厳しい1年であった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議・つむぎプロジェクト会議・入所役職者会議（原則毎月第4金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

〇利用者の確保

- 入所：年間新規50名、退去50名（施設内看取り45名・入院先死去1名・入院4名）、稼働率94.7%、年間空床数1,535日。上半期順調に推移したが、下半期看取り対応者急増。11月中旬にクラスター発生もあり前年度のほぼ倍となる退去となり入居が追いつかない状況となった。
- 短期：年間新規60名、稼働率74.1%、つむぎ通所介護併用利用者18.5%、認知通所併用利用者6.3%、居宅担当利用者35%。新型コロナウイルス感染症による利用控えや当日キャンセル、入居クラスター発生により23日間の営業休止等の影響があり予算達成には至らず。
- 通所：年間新規32名、稼働率55.6%。感染予防対策、環境整備、サービス提供体制の見直しを行い事業運営に努めたが、ご利用者、職員の複数回に渡る陽性者の発生や人員確保困難による事業縮小、ご利用者の利用控え等も重なり前年度より改善は見られたが厳しい年度となった。
- 認知：年間新規12名、稼働率42.1%。認知通所においても上記通所とほぼ同様。施設入所等による想定外の利用終了者が重なるも事業の特性上、体験から定期利用までに時間を要するため、速やかな利用数上昇が難しく年度を通じて非常に厳しい結果となった。
- 小多機：年間新規19名、稼働率86.9%（登録定員29名）。他事業が苦しい運営を強いられた年度の中で上半期予算を上回る好成績をあげ、下半期は新規確保できず苦戦したが、入所への紹介等貢献他の在宅サービスが苦戦するなか予算目標達成することができた。
- 居宅：年間新規39名。年度当初は休職、欠員により3名体制でのスタートを余儀なくされたが、復職、新規採用により8月から5名体制を維持した。しかし、コロナ等様々な要因により例年になく相談件数減少。つむぎ各事業所への紹介等大きく貢献したものの予算は未達であった。
- 予防：市内感染状況を踏まえながら町内会との協働イベントを初開催やSNSを活用したフレイル予防の体操、教室実施等々にはあるがコロナ前の活動とコロナ禍で新たに始めた活動を融合させ、精力的な活動を行った。
- 障害：年々新規相談件数は増加傾向で相談内容も多岐にわたり、職員も幅広い知識が求められる一方、今年度も年間を通じて相談支援専門員の入退職、病欠等落ち着かない体制が続いた。しかし、このような状況においても収支を意識した対応により予算達成することができた。

〇各種加算の算定

各事業前年度より算定の加算は継続。人員体制整備等により4月より段階的に入所において「褥瘡マネジメント加算（Ⅱ）」、「排せつ支援加算（Ⅰ）」、「栄養マネジメント加算」の算定を開始。通所においても「栄養アセスメント加算」、入所、通所において「ADL維持等加算Ⅱ」の算定を開始し単価維持・上昇に努めた。

〇水道光熱費及び費用の見直し

使用量においては、定期的な節約の周知等に努めたが（前年度比ガス▲0.7%、電気▲12.8%、融雪電力+13.2%、水道+2.6%）、昨年度以降の単価高騰により水道光熱費は前年度比+5,341千円。

〇2023年度に向けて

各事業、予算数値目標達成は基より要介護度の適正な見直し等による基本単価上昇やその他未算定加算の取得検討。上昇していく水道光熱費等支出の削減を意識した取り組みを行って参ります。

3. 職員状況（3月末現在）

〇2023年3月31日現在 職員状況 全事業合計130名（内非常勤32名、派遣4名）

- 入所・短期：管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員7名（内非常勤1名）、介護職員46名（内非常勤7名、派遣3名）、アシスタント2名（非常勤）、介護支援専門員2名、理学療法士1名、管理栄養士2名、歯科衛生士1名（非常勤）、生活相談員3名、事務職員5名 ・計71名
- 通所・認知：管理者2名（生活相談員兼務2名）、看護職員2名（内非常勤1名）、介護職員25名（内非常勤12名）、作業療法士1名、運転職員3名（非常勤） ・計33名
- 小多機：管理者1名（介護支援専門員兼務）、看護職員1名、介護職員13名（内非常勤4名） ・計15名
- 居宅・予防：管理者2名（内1名介護支援専門員兼務）、介護支援専門員4名、相談職員1名 ・計7名
- 障がい：管理者1名、相談支援専門員3名 ・計4名

〇2022年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

- 採用：15名【看護職員4名（入所3名、通所1名）、介護職員6名（入所4名、通所2名）、相談職員3名（入所1名、居宅1名、障がい1名）、栄養士1名（入所1名）事務職員他1名（通所1名）】
- 退職：19名【看護職員7名（入所5名・通所2名）、介護職員9名（入所6名、通所2名、小多機1名）、介護アシスタント1名（入所1名）、相談職員2名（障がい2名）】
- 異動：1名 転入1名【生活相談員（入所）西門山敬樹園より1名】 転出0名

4. 研修参加・実施状況

〇外部研修参加状況（浜仁会グループ・杜福法人本部主催研修含む）※参加回数31回、延91名参加

主催：札幌市、道社協、札幌市医師会、道看護協会、サライ他

感染症予防研修（コロナ関係）、認知症介護実践者、認知症リーダー、高齢者虐待防止研修、役職関係研修、スキルアップ研修 等

〇内部研修実施状況 ※開催回数14回、延417名参加

感染対策研修（入所・在宅）、虐待防止研修（入所・在宅）、事故防止研修、褥瘡予防研修、接遇研修、身体拘束研修、事例検討会 他

2022年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,835 人</u>	<u>27,665 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>75.8 人</u>
入所待機者	<u>42 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.29</u>	
協力医療機関	: <u>1. 手稲溪仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,920 人</u>	<u>2,705 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>7.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.34</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>13,601 人</u>	<u>11,135 人</u>
一日平均利用者数	<u>44.0 人</u>	<u>36.2 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.82</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型12名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2, 4 7 6 人</u>	<u>1, 5 5 1 人</u>
一日平均利用者数	<u>8. 0 人</u>	<u>5. 1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 8 8</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 （うち介護予防）	<u>1, 4 2 2 件</u>	<u>1, 3 1 2 件</u> <u>0 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2. 0 2</u>	
訪問調査件数		<u>4 1 件</u>

【介護予防センター】（まえだ）

延相談件数 8 2 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：1 8 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：5 3 件 その他：2 1 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>1 1 8 回</u>	<u>1, 6 7 4 人</u>
介護予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
転倒予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
認知症予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>2 3 回</u>	<u>3 6 8 人</u>

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>8,944 人</u>	<u>9,200 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,132 人</u>
※延宿泊数		<u>582 人</u>
※延訪問数		<u>4,160 人</u>
一日平均登録者数	<u>24.5 人</u>	<u>25.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.93</u> （要支援1・2を除く）	

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

新規登録者：101名 登録抹消者：354名 年度末登録者数：154名

■相談員1人につき51名 担当(職員3名)

(地区別) 北区：0名 東区：0名 中央区0名
西区：0名 手稲区：154名 市外 0名

(障がい種別) 身体：32名 重心：2名 知的：51名 精神：43名
発達：17名 高次脳：1名 若年性認知：1名 難病：0名
その他：7名

(児・者別) 障がい児：34名 障がい者：120名

支援方法 訪問：878件 来所：109件 同行：210件
ケア会議：77件 関係機関：2,765件 電話：2,133件
メール：379件 その他：563件

合計：7,114件

支援分類	福祉サービスの利用に関する支援	5,735件
	障がいや病状の理解に関する支援	17件
	健康・医療に関する支援	468件
	不安の解消・情緒安定に関する支援	195件
	保育・教育に関する支援	42件
	家族関係・人間関係に関する支援	93件
	家計、経済に関する支援	277件
	生活技術に関する支援	208件
	就労に関する支援	19件
	社会参加・余暇活動に関する支援	5件
	権利擁護に関する支援	55件

合計：7,114件

◇指定相談支援事業（サービス等利用計画）

契約者総人数 障がい者：16件 障がい児：8件

2022年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養に関しては、上期病状に対する早期対応が功を奏し退居件数は3件に留まり、年間アベレージも高値で安定していた。年間で3か月100%稼働を達成している。しかしながら5月、12月にコロナ感染によるアベレージへの影響は大きかった。感染後看取り対応への移行や体調変化による下期さらに3件の退居（年間計6件）へ繋がり、感染症を含めた体調管理が2023年度100%稼働への課題と考える。（一日平均入居者数：2020年度28.1名、2021年度28.3名、2022年度28.4名）

小規模多機能型居宅介護は、低アベレージに加え平均介護度の低下により低い収益で経過した。年間通しての営業活動や経営改善に向けた検討を続け、2023年3月にはアベレージ回復の目途が立ち、さらに平均介護度も上昇傾向となった。（年間アベレージ2020年度26.0名、2021年度27.9名、2022年度24.4名）

サテライト型小規模多機能ホームるびなすについては、新規ご利用者獲得に課題のあった1年であったが、柔軟なサービス提供により高介護度のご利用者ケアを実現。平均介護度の高い状態を維持し安定した経営に繋がった。今後も長く在宅生活が続けられるよう、個別の対応に特化した運営を目指す。（年間アベレージ2020年度17.5名、2021年度17.0名、2022年度15.3名）

2023年度稼働率100%達成の為、全事業所安定した待機の確保とともに、ご利用後入院の少なくなるよう早期発見早期治療はもちろん、医療提供範囲の見直し等行っていきたい。

事故（21件）・苦情（2件）に関して、事故については誤薬事故6件、転倒事故9件、転落事故3件、外傷事故2件、誤食事故1件であった。本年は転倒による骨折事故が複数発生しており、骨折に至ったケースもある。要因としてリスクの高いご利用者が同時に行動される等防げないケースもある一方、アセスメント不足によるケースも発生している。介護ロボットの導入とそれらを用いた事故検証により防いでいきたい。人財確保について、入職は7名（紹介会社2名、職員紹介制度1名、求人誌等3名）で、求人誌等の入職は2021年度より増加したが、人財確保の経費は年々増加している。離職は4名で、内2名はメンタル不調でした。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>：毎月第3月曜日（14：00～）開催

1）各事業所稼働率向上について2）職員募集・新人介護職員教育等について（離職防止も含め）3）感染症対策4）接遇5）その他<成果>

1）特養についてはご利用者に対し病状の管理、ケアの質の向上を検討。それによるアベレージの安定。

小規模に関してはアベレージの改善、平均介護度上昇による単価上昇を1年間かけて検討。それに伴い営業先の新規開拓により黒字転換を目指した。

2）定期的にマニュアルを見直しして、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。

3）施設内感染症対策について、感染委員会と連携し感染予防の方針決定、啓蒙活動を実施。また、ミーティングや会議、研修について開催基準や開催方法の見直しを行なった。

4）接遇についてマニュアルの啓蒙や改善点の報告等行った。

5）事故ゼロに向け、事例検討やマニュアルの改訂に努めた。また、感染予防のためオンラインでの会議・MTの流れ等、取り組みを検討。また、見守りセンサー導入に伴い動画検証を今後使用していく。

<今後の展開>

小規模多機能型居宅介護、るびなすについては連携を密に行い、安定経営を目指す。また、入居に関しては中重度要介護者・認知症高齢者の受入が基本となる。そのために専門性の向上と業務の効率化を図っていきたい。施設全体としては新規加算獲得に向け、日頃のケアから見直し、今後の展開を検討していきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況

医師1名（非常勤）、看護職員4名、介護職員41名（派遣2名）、生活相談員1名、管理栄養士2名、介護支援専門員3名、リハビリ1名（非常勤）、事務職員他6名（非常勤4名）、合計59名（非常勤4名、派遣2名、産休2名）

○2022年度職員異動状況

採用10名【介護職員 8名（常勤5名、派遣3名）、管理栄養士1名、その他1名】

退職13名【介護職員12名（常勤4名、非常勤3名、派遣5名）・その他1名】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：15回

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、看取りケア、他

○外部研修実施回数：11回、延13名参加

新入職員研修、セルフケア、感染予防研修、介護支援専門員更新研修、リーダー交流研修、新入職員フォローアップ研修、メンタルヘルス、他

○2023年度も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会を作っていく。内部研修では感染状況が落ち着き次第、グループ等の協力を得て外部講師を多く依頼しての研修を実施していきたい。

2022年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,475 人</u>	<u>10,357 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.7 人</u>	<u>28.4 人</u>
入所待機者	<u>7 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.18</u>	
協力医療機関	： <u>1. 広川内科クリニック</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u> <u>4. </u> <u>5. </u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,475 人</u>	<u>8,914 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,171 人</u>
※延宿泊数		<u>834 人</u>
※延訪問数		<u>5,631 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.7 人</u>	<u>24.4 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.69</u>	

【小規模多機能ホーム るびなす：登録者定員18名（通い定員9名、宿泊3名）】

目標

実績

延登録者数

6, 460 人

5, 584 人

※延通い利用者数

1, 552 人

※延宿泊数

22 人

※延訪問数

2, 5 7 1 人

一日平均登録者数

17.7 人

15.3 人

要介護度状況：

平均要介護度 1.58

2022年度 事業報告

施設名： カームヒル西門山

1. 総括

特定入居者生活介護登録者は、アベレージ44.4名（目標46名）、一日平均入所者数は99.1名（目標100名）、平均介護度は1.1であった。下期に入院者が多く、加えて電気代の高騰もあり、下期の収支は厳しいものとなった。

入居者の高齢化、介護度の上昇に伴い、この傾向は継続することが想定されるため札幌西門山病院との連携強化、早めの入退所調整が必須となる。

職員については3名の退職者が出たが、人材不足の中、補うことができた。

I C T化は新しいソフトの導入に伴い、早期の取得に努めた。

地域活動では、医療法人とのカー助の会の活動の継続（職員のプロボノ）、コロナ禍での出来る活動を心掛け、入居者による町内清掃や手作り品のプレゼントなどを行うことができた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1) 役職者会議 月1回開催

参加メンバー：施設長、経営管理課長、介護課長、相談主任、介護主任、介護副主任、看護副主任、経営管理主任

内容：一般・特定の在籍数や月ごとの経費執行状況について報告・協議。その後の職員会議でも実績報告を行う。

<成果>

経営状況を役職者で共有でき、一般から特定への変更や住み替えの相談など、経営状況を意識した入居者調整が出来ている。

<今後の展開>

経営を意識した運営を継続するため、介護報酬での収支を常に確認していく。入退院や住み替えを減らしていくため、閉じこもり・介護予防活動を強化していく。また、札幌西門山病院との連携強化として、リハビリや看護も含めた入退院調整の強化を図る。

2) 電気代高騰の為、館内の節約について：床暖の不必要時のOFFの徹底を図る。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況

看護職員：2名、介護職員：15名、相談職員：2名、栄養士1名、事務職員等：2名、合計：22名

○2022年度職員採用・退職等状況

退職⇒3名

採用⇒2名（介護職員、相談職員）

異動⇒1名

4. 研修参加・実施状況

○参加：38回 参加者：延157名

外部研修：老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・北海道社会福祉協議会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

2022年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,600 人</u>	<u>36,078 人</u>
（うち特定入居者）		<u>16,231 人</u>
一日平均入所者数	<u>100 人</u>	<u>99.1 人</u>
（うち特定入居者）		<u>44.4 人</u>

入所待機者（3月末現在）個人：74 人 夫婦：11 人 うち特定：17人
（要支援1・2を含む）

要介護度状況： 平均要介護度 1.2 （要支援1・2を含む）

協力医療機関：1. 札幌西円山病院

2022年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石

1. 総括

2022年度は、老健において各階における2度のクラスターを経験した。いずれも重症化により数名の入院があり、食事摂取量の低下や心身状態の低下により平常化に戻るには時間を要した。この2回のクラスターの経験を次に生かすためにも常に職員間で協議し、クラスター時におけるサービス向上を目指していく。

他事業については、各所属長の確かな事業運営により概ね予算収支を確保することが出来た。経営に強い体質になりつつあるので、次はブロック全体の職員が現状のサービスを評価し着実に改善し、魅力あるブロック帯の形成に着手していく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

開催日：毎月1回、第3月曜日に定例開催。

参加者：施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、施設管理課長、支援相談課課長代理の7名。

内 容：利用稼働率（老健入所、通所）の確認

超強化型算定への協議（在宅復帰率、ベッド回転率、他算定要件の確認）

新規加算の算定に向けた検討

BSCアクションプラン実施に向けた検討

その他運営上の課題について協議

<成 果>

1 2022年度BSCにおけるアクションプランの実施をリードした。

2 BCP策定の先導

3 各事業の運営の適正化の検証

<今後の展開>

経営改善プロジェクト会議は、これまで通り白石の運営方針策定やBSC運用に際して重要な位置付けとなります。ブロック全体の将来的な視野も入れ、各課題を共有、協議し運営会議に繋げ所属長合意のもと事業運営を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況

医師2名、看護職員19名、介護職員83名、相談職員35名、介護支援専門員8名、療法士19名、管理栄養士2名、歯科衛生士1名、事務職員他35名、非常勤ヘルパー8名 合計212名

※産休・育児休業4名、育児短時間勤務1名

○2022年度職員異動状況

採用：27名（看護職員2名、介護職員15名、療法士2名、事務職員他8名）

退職：26名（看護職員3名、介護職員14名、療法士1名、事務職員他8名）

転入： 3名

転出： 0名

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延64名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延54名参加

○外部研修：延61名参加

○内部研修（全体研修）：新入職員研修会3名参加

ケアの質向上委員会主催による「事例発表会」を参加者制限し2回開催し14事例発表

それ以外の事業所においては視聴形式による発表方法にて実施し9演題発表

○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び伝達講習会を参加人数制限し実施

2022年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	35,405 人	34,706 人
一日平均入所者数	97.0 人	95.1 人
入所待機者	13 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 3.2 （短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 札幌西田山病院	
	2. 白石中央病院	
	3. 札幌ひばりが丘病院	
	4. 東札幌病院	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	9,768 人	9,200 人
一日平均利用者数	40.7 人	40.3 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.0 （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	6,006 人	5,710 人
一日平均入所者数	16.5 人	15.6 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.5 （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>4, 437 回</u>	<u>3, 935 回</u>
（介護保険外）		<u>87 人</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>14.5 回</u>	<u>12.8 回</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.5</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>7, 117 回</u>	<u>6, 785 回</u>
（介護保険外）		<u>0 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>29.0 回</u>	<u>27.6 回</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.3</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2, 451 件</u>	<u>2, 332 件</u>
（うち介護予防）		<u>104 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.5</u> （要支援1・2を除く）	

【第1 地域包括支援センター】

延相談件数 1184 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：853 件 権利擁護：19 件 高齢者虐待：5 件

介護予防：9 件 その他の保健福祉サービス：14 件

認知症に関すること：109 件 消費者被害に関すること：5 件

住まいに関すること：92 件 心身の健康に関すること：22 件

家族の疾病・障がいに関すること：4 件 その他：80 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>18 回</u>	<u>0 回</u>
個別地域ケア会議の準備会	<u>19 回</u>	<u>0 回</u>
地区地域ケア会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
地区連絡会議	<u>11 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>3 回</u>	<u>0 回</u>
区連絡会議	<u>10 回</u>	<u>0 回</u>
その他のケース検討会議	<u>0 回</u>	<u>1 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>75 回</u>
地区組織との連携	<u>2 回</u>	<u>11 回</u>
医療機関との連携	<u>0 回</u>	<u>1 回</u>
生活支援コーディネーターとの連携	<u>0 回</u>	<u>1 回</u>
その他関係機関との連携	<u>16 回</u>	<u>13 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>842 件</u>	<u>529 件</u>	<u>131 件</u>

【第3 地域包括支援センター】

延相談件数 1301 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：827 件 介護予防：3 件 権利擁護：32 件
 その他の保健福祉サービス：16 件 消費者被害に関すること：2 件
 認知症に関すること：111 件 住まいに関すること：119 件
 心身の健康に関すること：32 件 高齢者の虐待に関すること：11 件
 家族の疾病・障がいに関すること：11 件 医療に関すること：29 件
 処遇困難：58 件 その他：281 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>21 回</u>	<u>0 回</u>
個別地域ケア会議の準備会	<u>21 回</u>	<u>0 回</u>
地区地域ケア会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
地区連絡会議	<u>0 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
区連絡会議	<u>12 回</u>	<u>0 回</u>
その他のケース検討会議	<u>7 回</u>	<u>0 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>23 回</u>
地区組織との連携	<u>31 回</u>	<u>29 回</u>
医療機関との連携	<u>2 回</u>	<u>1 回</u>
介護支援専門員連絡協議会	<u>4 回</u>	<u>9 回</u>
生活支援コーディネーターとの連携	<u>1 回</u>	<u>0 回</u>
その他関係機関との連携	<u>81 回</u>	<u>37 回</u>

予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>828 件</u>	<u>821 件</u>	<u>387 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 69 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：30 件 権利擁護：1 件 高齢者虐待：1 件

介護予防：23 件 その他：14 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
介護予防教室	<u>164 回</u>	<u>2398 人</u>
転倒予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
認知症予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>9 回</u>	<u>6125 人</u>

2022年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,463 人</u>	<u>6,497 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.7 人</u>	<u>17.7 人</u>
入所待機者	<u>18 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.7</u>	
協力医療機関	: <u>1. よつばクリニック</u>	
	<u>2. 札幌ピースデンタルクリニック</u>	
	<u>3. 北郷皮膚科</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,585 人</u>	<u>10,417 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,834 人</u>
※延宿泊数		<u>344 人</u>
※延訪問数		<u>4,561 人</u>
一日平均登録者数	<u>29.0 人</u>	<u>26.0 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.83</u>	

2022年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 老健入所については、8月にクラスターが発生し半数以上のご利用者が罹患。職員についても多数が感染し、約1ヶ月余り対策に迫られた。幸いにも死亡や重症化がなく経過し終息に至ったが、全職員の相互協力や法人内での人的・物的な支援があつて乗り越えられたものと振り返る。年間を通すと感染対策に費やされた経費も多いが、入所者数には影響なく過ぎたため、短期入所も機能させながら目標値を達成することが出来ている。在宅復帰指標についてはコロナ禍による特例に該当する事例もあり超強化型を維持し続けられた。
- 通所リハビリについては、施設クラスターによる営業停止のみならず、ご利用者本人や家族の感染に起因する欠席が多く、また感染対策を強化するゆえに消極的な運営になりがちであったため、ここ数年と比べて大きく落ち込んでしまった。
- 訪問介護については、第3四半期頃までは順調に推移していたものの、年度末でサービス提供責任者の退職が予定されたことから、引継ぎ等を重視した運営を要し目標値には若干到達せず終えた。
- 訪問リハビリについては、需要は感じつつも、入所・通所に注力されてわずかな余力運営となっている。
- 居宅介護支援については、夏季に件数を伸ばすことができたが、大半の月で予算件数を下回り年間目標に達することが出来なかった。
- 燃料や電気、消耗品コストが高騰することで大半の費用が予算を上回った。新型コロナ感染施策に掛かる様々な補助金等により、経営を支えられたが、翌年以降は先細りとなるため一層の経営努力を要するものと覚悟する。
- 感染流行における第7波、第8波と地域でも感染が目立ち職員や家族の罹患による欠勤が多発したため、結果的には全体の有休消化には繋がっているが、人員不足も重なりその結果には偏りがある不公平な状況であった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

- <活動状況>施設運営会議（毎月第4木曜日）において経営状況における課題等を協議
- 接遇に取り組み4年が経過したが、前年同値の8件が苦情として上がり減少に至らずにいる。うち接遇関連は7件から4件と減少したが、乱暴なケアや言動に起因している事例が1件あったため、不適切ケア防止のために会議とグループワークを実施し意識改革に取り組んだ。ほか洗濯物の取り扱いに関する苦情が2件あり、洗濯物の交換ルールについて見直しが行われた。
 - 前年度末よりオミクロン株が主流となり1年が経過したが、流行の合間を見ながら外出行事も検討して行った。第7波ではクラスターも経験したが、その後はオミクロン株対応ワクチン接種も実施し、利用者忘年会などの大きな行事も感染対策と並行して開催できた。
 - 面会については玄関脇の夜間通用品を利用しガラス越し面会を行っていたためリスクは少ないと判断。クラスター最中を除き年間を通して実施していた。
 - 介護ロボット導入支援事業を活用し、社福全体で介護システムが更新。同時にインカム、移乗ロボ、見守りセンサーと大幅に新しい機器を導入した。これらを活用および拡充する取り組みが今後を左右すると思われるため精力的に取り組む。
 - 退職欠員となっていた歯科衛生士が今年度早期に補充され再度口腔ケアチームが立ち上げられた。年末には産休となっているが、嚥嚥性肺炎による入院者数は例年より低下しており効果が表れていると感じた。
 - 職員の発想力・企画力を活かし育成する目的で、2年目のアイデアコンペを行い2企画の選定が行われた。
 - グループの研究発表については、慢性的な人手不足を理由に近年消極的となってしまうため、職員の資質向上と活性化を目的に出題に取り組んだ。残念ながら受賞には至らなかったものの、これまでに無く3演題も出題できた。
 - ノーリフトケアについてプロジェクトを始動。全ての場面での成果ではないが、スライディングボードの活用が定着化されてきたり、腰の負担軽減に繋がるベルトを活用したり、ほか移乗ロボット等の様々な器具導入を探っている。
- <今後の展開>
- 介護システムの活用割合はまだ低く、活用の仕方によっては業務軽減の可能性を見込める。まずは活用割合を高めることを優先とし、また連携できる他システムの導入など、ICT・DXの推進を進めて行きたい。
 - 面会制限の緩和により施設内に家族が入るようになることで、様々な人達のコミュニケーション機会が得られる。それによりサービス向上や接遇向上に繋げ、利用者や家族のみならず職員の満足度を高める機運としたい。
 - 同様に職員同士のコミュニケーションも再開できるようになってきたので、この機会を得てスタッフの懇親を深めて行きたい。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2023年3月31日職員状況
医師1名、看護14名（内非常勤3名）、介護（助手含む）54名（内非常勤16名）、療法士9名（内非常勤3名）、管理栄養士2名、CM6名、訪問介護員4名、相談4名、事務他12名（内非常勤8名）、《合計》106名（常勤75名、非常勤31名）
- 2022年度職員異動状況
採用：14名（看護2名、介護6名、助手2名、訪問介護員1名、歯科衛生士1名、事務他2名）
退職：17名（看護1名、介護8名、助手2名、訪問介護員2名、療法士1名、事務他3名）

4. 研修参加・実施状況

- | | |
|--|----------------|
| ○内部研修：感染対策、身体拘束、褥瘡予防、口腔ケア・嚥下、BCP、感染シミュレーション等 | 合計 7回 延 575名参加 |
| ○外部研修（法人内）：幹部セミナー、新人研修・フォローアップ研修、介護リーダー研修等 | 合計 14回 延 49名参加 |
| ○外部研修（法人外）：認知症介護基礎研修、人材育成・職場環境セミナー、高齢者虐待防止等 | 合計 8回 延 18名参加 |

2022年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	32,485 人	32,608 人
一日平均入所者数	89.0 人	89.3 人
入所待機者	6 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 3.0（短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 八雲総合病院	
	2. ヤクモ歯科クリニック	
	3. _____	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	8,256 人	6,842 人
一日平均利用者数	32.0 人	27.7 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.9（要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	305 人	89 人
一日平均利用者数	1.3 人	0.4 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.2（要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>2, 9 6 6 回</u>	<u>2, 8 6 7 回</u>
（介護保険外）		<u>3 0 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>9. 6 回</u>	<u>9. 4 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 4</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1, 1 4 0 件</u>	<u>1, 1 2 4 件</u>
（うち介護予防）		<u>2 4 8 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 8</u> （要支援1・2を除く）	

2022年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

2022年8月中旬頃に利用者様、職員合わせて34名、12月中旬頃には利用者様、職員合わせて56名が新型コロナウイルスに感染するクラスターの発生となり、業務支援を行うため通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの2事業を2度一定期間休止し、早期の感染終息に努めた。

収益についても、サービスの休止等を含め目標値には届かない結果となったが、1年間を通して黒字の利益率を残すことができた。

＜入 所＞上半期は厳しい状態が続いたが下半期は目標に近い入所者数で推移していき、一定期間ではあるが超強化型を算定することもできた。

稼働率においては100%稼働には至らなかったが、上半期86%から下半期94%まで稼働率を回復させ利益改善につなげることができた。

＜短 期 療 養＞1年間を通して目標値以上の結果を残すことができた。

＜通所リハビリ＞施設内のクラスター感染発生による業務支援のため、早期の終息にむけ一定期間サービスを休止した。

このことに伴い延利用者数の減少、収益が目標値より大きく届かず、非常に厳しい結果となった。

＜訪問リハビリ＞設定していた目標には届かなかったが、年度初め、サービス休止月以外は黒字の利益を残すことができた。

新規利用者の獲得については、通所リハビリテーションを利用されている方が併用利用の新規利用者となっており、通所との連携を図った。

＜通 所 介 護＞上半期は目標値を達成し稼働率も80%前後で推移したが、下半期は体調不良等から利用数が減少傾向にあり稼働率も75%前後となった。

＜居 宅 介 護＞コロナ禍にはあったが、平均新規作成件数が6件、延作成件数もほぼ目標達成に近い数値を残し、利益率も高い結果を残すことができた。

＜訪 問 介 護＞在宅から施設への入所やコロナウイルス感染によるサービス休止等により、前年度に比べ延人数・収益が減少し、目標値には届かなかった。

＜今後の展開＞新規加算の算定、加算算定に伴う体制の確保等、昨年度未達成にあった内容を達成していく。

引き続き感染対策を十分にを行い、事業を休止することなく運営継続ができるよう対策・体制を整えていく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活 動 状 況＞施設運営会議：施設・在宅事業全体での経営改善にむけての検討。

定例会議：各事業（入所、通所、訪問、居宅）において、経営改善や業務の効率化に必要な課題の明確化・検討。

＜成 果＞利益率、人件費率等、目標値達成への進捗状況の確認を行い、経営改善に必要な課題が明確になった。

各事業間での情報共有をおこなうことにより、利用者様等に対しての早期対応に努めることができた。

＜今後の展開＞感染対策、節電等を十分に意識しながら、事業の運営を行っていく。

昨年度、目標に掲げ達成できなかった新たな加算の算定を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

2023年3月31日職員状況

（コミュニティホーム美唄）

・医師1名、看護職員15名（内非常勤4名）、介護職員49名（内非常勤15名）、栄養士2名、相談員4名、事務・施設管理職員8名（内非常勤2名）、リハビリ職員8名（理学療法士6名、作業療法士3名）、清掃職員5名（非常勤）、運転職員7名（非常勤）

・合計99名（内非常勤33名）

（すまいる）

・介護支援専門員5名、訪問介護員25名（内非常勤20名）、看護職員2名（内非常勤2名）、介護職員5名、事務職員8名（内非常勤4名）、作業療法士1名

・合計46名（内非常勤26名）

2022年度職員採用・退職等状況

（コミュニティホーム美唄）

・採用：8名（看護職員2名、介護職員3名、理学療法士2名、管理栄養士1名）

・退職：8名（看護職員2名、介護職員3名、理学療法士1名、作業療法士1名、施設管理職員1名）

・転出：1名（介護職員）

（すまいる）

・採用：4名（看護職員1名、介護職員3名）

・退職：4名（介護職員3名、訪問介護員1名）

4. 研修参加・実施状況

＜全体＞

・外部研修参加回数：16回（コミ美唄：12回、すまいる：4回）、内部研修参加回数：40回（コミ美唄：8回、すまいる：32回）

（コミュニティホーム美唄）

・外部研修：新入職員研修、日医認定産業会、ハラスメント研修会、コンプライアンス研修会、安全運転管理者講習会、新入職員フォローアップ研修、接遇研修、認知症介護実践者研修、危険物保安講習、共感力向上研修、介護福祉士実習指導者講習会、施設内交流

・内部研修：新型コロナ学習会、LIFE褥瘡加算、排泄加算についてプチ学習会、KYT（危険予知）、手指消毒研修、身体拘束廃止・高齢者虐待防止研修、AED救急救命学習会、事故防止研修会、PPE着脱方法

・Zoom、テレビ会議システムを使用して研修参加を行い、知識・情報共有に努めた。

2022度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	28,256 人	26,074 人
一日平均入所者数	77.0 人	71.4 人
入所待機者	17 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.80（短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 市立美唄病院 2. 宝崎歯科分院	

【通所リハビリテーション：定員65名】

	目 標	実 績
延利用者数	12,200 人	10,528 人
一日平均利用者数	50.0 人	47.8 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.92（要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	120 人	58 人
一日平均利用者数	0.3 人	0.2 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.83（要支援1・2を除く）	

2022年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センターすまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>5,672 人</u>	<u>5,175 人</u>
一日平均利用者数	<u>22 人</u>	<u>19.9 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.6</u> (総合事業を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>15,619 人</u>	<u>13,575 人</u>
(介護保険外)		<u>3,568 人</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>50 人</u>	<u>44.0 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.8</u> (総合事業を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,376 件</u>	<u>2,345 件</u>
(うち介護予防)		<u>344 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.8</u> (総合事業を除く)	

【福祉入浴】（自主事業）

延利用者数 1, 576人

一日平均利用者数 11.1人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（LSA）】（受託事業）

対応件数 4, 172件

(安否確認： 3, 859件 相談連絡： 248件 健康異変： 18件

ガス漏れ警報器： 6件 非常呼出： 39件 その他： 2件)

2022年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

コロナ禍で利用者・家族に大変迷惑・不便を掛けた1年であった。コロナ感染拡大の影響は大きく、老健入所・通所リハを中心に目標達成に至らなかった。特に入居については新規入所に時間を要し施設全体の経営にも大きな損害であった。老健施設として、入居・SS・通所リハ・訪問リハそして訪問看護も含め「在宅支援の機能」をしっかりと果たす施設運営を実施する必要があるといえる。そのためにも、コミュニティホーム岩内と岩内ふれ愛の郷の2つの施設が連帯感を持って一体経営強化を継続して実施していきたい。今後、改めて新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症蔓延防止対策が課題といえる。

1. 老健入所は、通年「加算型」を取得することができたが、在宅支援施設の役割を果たすためには、加算型から在宅強化型そして超強化型へステップアップできるシステム（人員も含め）を構築することが重要になってくるため、プロジェクト会議等で検討していきたい。
2. 各種加算算定は、計画通り算定できなかった。人員体制での問題もあったが、より計画的に算定できるよう調整していきたい。
3. 訪問看護・訪問リハビリは、目標を達成することができなかったが、地域性もあり必要な事業であるため他事業所とも連携し経営的にも安定した運営に努めていきたい。
4. 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターは、延利用者数目標をほぼ達成することができた。また、地域包括支援センター主催の介護予防事業「はつらつ元気塾」と「介護予防教室」は2021年実施出来なかったが2022年度は実施する事ができた。
5. 事業所内保育所の利用者は、2021年度に比べ少し減少しているが、子育て中の職員には大変好評であった。
6. 喫緊の課題は、人材確保と人材育成である。介護職員は当然であるが、看護職員やリハ職員等の専門職の確保が依然厳しい状況である。安定した職員の確保と年代別の職員育成、そして、働きやすい職場環境作りを推進していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. 岩内ふれ愛の郷と合同で実施している「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」を月1回開催し、検討課題等を情報共有することで透明性の保持や可視化することができている。
2. 特に「プロジェクト会議」ではコミ岩・ふれ愛の連携強化（特に利用者確保）について協議検討実施。

<成果>

- ・ 「プロジェクト会議」で在宅復帰阻害要因等の検証を行い、老健入所は、通年「加算型」を算定することができた。
- ・ 昨年度より在宅サービス利用者が定期的にコミ岩の入所サービス利用する方が増加した。
- ・ 一体経営に向けコミ岩・ふれ愛の職員異動が（介護以外にも看護師や事務員も）円滑に実施できた。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率に向けた目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 今後は稼働率向上も含め「加算型」から「在宅強化型」へ移行できるよう協議検討していく。
- ・ 長期にわたり人材不足が続いていることは喫緊に課題である。効果的な募集・離職防止対策等を推進していきたい。
- ・ 「LIFE」の円滑な運用と積極的な加算取得を推進。
- ・ 感染症含め、自然災害・介護事故におけるリスク管理体制の強化。
- ・ ICT化により業務改善の強化

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況 <入所・DC・包括・居宅・訪問看護>

医師1名、理学療法士9名、作業療法士1名、管理栄養士1名、栄養士1名、看護職員24名（内非常勤・嘱託・派遣11名）
相談職員5名（内非常勤1名）、介護職員75名（内非常勤43名）、介護支援専門員4名（内非常勤2名）
事務職員7名（内非常勤3名）、施設管理職員1名、運転職員8名（内非常勤8名）、リハアシスタント1名、合計：138名

○2022年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：26名【介護16名、看護6名、支援相談員1名、管理栄養士1名、理学療法士2名】

退職：22名【介護13名、看護5名、支援相談員1名、管理栄養士1名、作業療法士1名、介護支援専門員1名】

異動：7名【介護3名、看護1名、支援相談員1名、管理栄養士1名、事務職員1名】

育児休業：4名、産前産後休業：2名、病欠：1名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（浜仁会グループ・キャリア支援主催研修含）参加者延136名

中堅管理者研修、接遇研修、終末期リハ研修、認知症初期集中支援研修、施設看護師専門研修、介護福祉士実務者研修、その他

○施設内研修開催回数12回

緊急時対応研修、ケアプラン研修、身体拘束廃止研修、事故防止研修、感染対策研修、事故対策研修、その他

○岩内コミュニティの丘合同研修開催回数11回

介護現場におけるリスクマネジメント研修、オムツのあて方研修、その他

2022年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名】

	目 標	実 績
延入所者数	35,770 人	34,156 人
一日平均入所者数	98.0 人	93.6 人
入所待機者	4 人 (3月末現在)	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.69	
協力医療機関	： 1. 岩内協会病院	
	2. 済生会小樽病院	
	3. 中村歯科医院	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	9,918 人	8,403 人
一日平均利用者数	41.5 人	35.2 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.25 (要支援1・2を含む)	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	368 人	131 人
一日平均利用者数	1.6 人	0.6 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.75 (要支援1・2を除く)	

【地域包括支援センター】

延相談件数： 208件

相談内容

介護サービスの利用： <u>119件</u>	代行申請： <u>22件</u>
入所を含む施設関連の相談： <u>1件</u>	生活支援： <u>2件</u>
高齢者虐待： <u>6件</u>	認知症： <u>15件</u>
介護予防・リハビリ： <u>3件</u>	その他： <u>40件</u>

会議・事業の開催、参加等

	主 催	参 加
役場・包括連絡会議	<u>0回</u>	<u>6回</u>
センター会議	<u>12回</u>	<u>12回</u>
地域ケア会議（個別処遇会議）	<u>0回</u>	<u>3回</u>
自立支援型地域ケア会議（擬似会議）	<u>3回</u>	<u>3回</u>
虐待対応ケース会議	<u>0回</u>	<u>8回</u>
認知症初期集中支援チーム員検討会議	<u>0回</u>	<u>1回</u>
居宅・包括連絡会議	<u>3回</u>	<u>3回</u>
民生福祉委員協議会	<u>0回</u>	<u>2回</u>
運営推進会議（包括・その他）	<u>1回</u>	<u>2回</u>
都市計画策定委員会	<u>1回</u>	<u>1回</u>
町づくり検討委員会	<u>1回</u>	<u>1回</u>
はつらつ元気塾	<u>20回</u>	<u>19回</u>
介護予防教室	<u>7回</u>	<u>7回</u>
介護予防普及活動	<u>0回</u>	<u>4回</u>
認知症カフェ	<u>0回</u>	<u>2回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	委託プラン
要支援（予防給付）	<u>41件</u>	<u>1185件</u>	<u>0件</u>
予防ケアマネジメント（総合事業）			
	入手数	直営プラン	委託プラン
	<u>36件</u>	<u>795件</u>	<u>0件</u>

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>4, 1 4 8 回</u>	<u>3, 6 9 9 回</u>
(うち介護保険外)	<u>8 5 5 回</u>	<u>7 8 0 回</u>
一日平均利用者数	<u>1 7 . 0 人</u>	<u>1 5 . 1 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1 . 2 4</u> (要支援1・2を含む)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>4 0 8 件</u>	<u>3 9 5 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1 . 4 9</u> (要支援1・2を除く)	

2022年度 事業報告

施設名：青葉ハーディケアセンター

1. 総括

<通所介護>

昨年、一昨年と同様コロナ禍の運営が続き、2022年3月には職員、利用者それぞれに陽性者が発生し、4日間の営業休止の影響が残ったまま新年度のスタートとなった。

新規利用者については、コンスタントに獲得でき体験利用者の紹介も途切れる事はなかったが、市中感染の拡大に合わせる形で利用控えが断続的に発生し全体の数字の落ち込みに繋がった。しかしリーフレット等による営業活動を通して、アクションを起こすことで相談件数の増加につながることを実感したこともあり、次年度以降の営業戦略のヒントは得られた。ICT化推進についてもタブレットを本格導入し、基本的な日常業務において電子化への移行に成功した。業務効率が上がったことにより、生産性の向上、適正な人員配置の見直しなどにも結び付けたい。

2021年度に行われた制度改正・報酬改定については、LIFEをはじめ、幅広い加算算定が継続できている、新年度はさらに口腔機能向上加算の算定を予定（2023年6月から）

<居宅介護支援>

当初予定の下期からの人員増とはならず特定事業所加算Ⅲ算定のままとなる。また、年度スタートからはほぼ2ヵ月間は管理者不在となり2名体制となる事も一因となり新規利用者の獲得に影響が出た。新規利用者の相談数自体もここ数年に比較して少なくなっていたが、地域の研修参加を積極的に行い、地域包括支援センターとの虐待事例の対応、緊急時相談の即応などによってか下期後半からは相談件数が徐々に増え特に青葉町在住の利用者について地域包括支援センターや区保健師からの紹介、本人、家族からの相談が目立つようになる。青葉事業所との連携を図りながら、よりきめ細やかな予実管理を意識して新規利用者の獲得、安定化をはかり収益改善、向上を目指していく。またSurface（タブレットPC）を活用した業務についてもスムーズに行われており、次年度に始まるケアプランデータ連携などについても積極的に活用していきたい。

<訪問看護>

昨年度に続き、コロナ禍での職員・利用者・利用者の家族と感染があり、職員間でカバーしあっていたが、利用件数減少と影響はあったと考えられる。

最近では医療度の高い利用者の相談や、時々ではあるが小児の相談も増えてきており、「医療度の高い利用者や小児も対応できる訪問看護ステーション」として周知されていると考えられる。今後はそれに対応出来る看護師やリハビリのニーズが求められており、スタッフの研鑽も必要になってくる。

コロナ禍の影響もあり、新規の利用者は看護2.2名、リハビリ0.8名と獲得が難しくなっているが、次年度では新規の獲得に重点を置き、医療機関や居宅支援事業所との連携強化に努め、今後も収益の安定とケアの質の向上を目指していく。

<小規模多機能>

年間を通して予算未達となっており、平均27.3名に留まった。年度途中で宿泊者の増加により定員を6名から7名に変更。一定の宿泊者数の確保はできた。2023年度は利用者の要介護度の見直しや泊り利用を維持して、更なる安定した運営を目指すとともにICT化推進にも着手したい。

<児童デイサービス>

延利用者数が月平均200名を超えることもあり一定の目標を達成した月もあったが、予算には未達で乖離が大きく発生。慢性的な人員不足から長期間に渡り有料での求人掲載にも応募は皆無で法人・グループ内への協力を申し出るも採用には結びつかず。今後については、すでに理事会で承認を受けた通り7月末の事業閉鎖に向けて、利用者への影響を最小限にとどめながら手続きを進めたい。

(今後の展開)

2023年度においては、各事業所ともに基本的な感染対策を講じつつ、新規利用者の獲得に全力を挙げる。これまでにセンター全体を網羅する広報が不足していたため、新規でパンフレットを作成することで営業を強化し新規利用者の獲得につなげたい。また費用削減についても水道光熱費に関連する使用量の削減や適正な人員体制を行う。サービスの質向上、職場環境の改善、健康経営を意識した衛生管理体制強化に取り組む。また、ご利用者・家族への接遇はもちろん、来客者や職員同士の接遇強化にも取り組む。更新した介護保険ソフトについてもさらに積極的な活用を実施し、生産性の向上やペーパーレス等による経費削減にも取り組む。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○運営会議（毎月1回）：5事業所全体の経営改善にむけての検討

参加者：センター長、各管理者（居宅、通所、小規模、訪問看護、経理）

○各部署経営改善プロジェクト（居宅、通所、小規模、訪問看護）：各事業所内での経営改善にむけての検討

○通所主務者会議（毎月1回）：業務の効率化、経営改善にむけての検討

参加者：管理者、役職者、リーダー、看護師

○居宅会議（毎週1回）：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施

参加者：介護支援専門員全職員

○地域への参画（健康ステーションでの予防体操の実施） ※コロナ禍で見合わせ

○ふくまち講座へのリハスタッフ派遣 ※コロナ禍で見合わせ

＜成果＞

○各事業所間で連携をはかり、利用者数の獲得につなげることができた。（小規模多機能へ居宅から紹介など）

○各事業所間での情報共有をおこなうことにより、経営上必要な課題点が明確になってきた。

○情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者に対しての早期対応、また業務の効率化をはかっていくことができた。

○コロナの影響で地域活動は限定的な参加となったが、地域の医療福祉に関する関係者への営業で、認知度は上がり、新規依頼は増えた。

医療度の高い利用者、小児に対応できる訪問看護ステーションと言う地位は確立した。

＜今後の展開＞

○新規利用者の獲得、既存利用者の確保、コスト意識をしていきながら、極力少ない費用と人員で収益を確保できるよう努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2023年3月31日職員状況

- ・生活相談員： 2名
- ・介護支援専門員： 4名
- ・看護職員： 11名（内非常勤職員 3名、休職者1名）
- ・理学療法士： 4名（内非常勤職員 1名）
- ・作業療法士： 4名
- ・介護職員： 21名（内非常勤職員 8名）
- ・事務職員： 3名
- ・運転職員： 3名（内非常勤職員 2名）
- ・合計： 52名（内非常勤職員14名、休職者1名）

○2022年度職員異動状況（出向者含む）

- ・採用：5名（介護職員1名、看護職員2名、作業療法士2名）
- ・退職：6名（看護職員3名、介護職員1名、作業療法士1名、運転職員1名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修35回 延参加者数61名

通所ケアマネジメント研修、認知症介護実践研修会、介護の記録の書き方、介護経営セミナー、女性の健康課題とキャリアの両立、訪問看護の褥瘡ケア、褥瘡治療と栄養を考える、令和4年度診療報酬改定会員限定トピックス、神経筋疾患を学ぶ、2次骨折予防における理学療法士の役割と期待、児童発達支援管理責任者実践研修、相談支援従事者現認研修、日本感覚統合療法基礎研修、強度行動障害研修、児童虐待研修、集団指導研修、厚別区包括支援センター研修（社会資源、高齢者虐待予防、個別事例検討）、厚別区ケアシンポジウム、ケアマネ資質向上研修、C a r e T E X 認知症の人の食べる喜びを支えるケア、神経筋疾患を学ぶ（北海道医療センター研修会）、自然災害リスクの解説と防災・減災のポイント（あいおいニッセイ同和損保セミナー）、社会福祉法人パートナー研修会（介護保険部会の審議から見える改正の方向性）、北海道在宅医療推進センター医療従事者向け研修、高齢者虐待防止推進研修など

北海道主任介護支援専門員研修、緩和ケア（厚生病院勉強会）、厚別区地域包括ケア連絡会（診療報酬改定、事例検討、新さっぽろ移転3病院報告）、中央区在宅ケア連絡会（循環器疾患）

○内部研修26回 延参加者数74名

リハビリ栄養合同研修会「栄養とリハビリテーション」、接遇研修、虐待防止研修、札幌市集団指導伝達研修、コロナ感染対策研修、災害時対策研修など新入職員研修、ハラスメント防止研修会、リーダー研修、研究発表会、職員合同研修会、接遇担当職員研修、運転研修、プライバシー保護の取り組みに関する研修、認知症研修、さくらぼ（感染症・食中毒の予防及びまん延防止に関する研修、事故発生又は再発防止に関する研修）、他法人共同事例検討会（重仁会）、ハラスメント防止研修会（法人）、さくらぼ（感染症予防、認知症ケア、非常災害時対応、プライバシー保護、倫理及び法令遵守）、居宅学習会（面接技術、障がい福祉サービス）

2022年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型40名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>8,782 人</u>	<u>7,261 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>28.4 人</u>	<u>23.5 人</u>
要介護度状況 一般型	： 平均要介護度 <u>1.48</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,456 件</u>	<u>1,276 件</u>
（うち介護予防）		<u>188 件</u>
要介護度状況	： <u>1.82</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>7,134 回</u>	<u>6,730 回</u>
（うち介護保険外）	<u>2,115 回</u>	<u>1,927 回</u>
一日平均利用者数	<u>29.3 人</u>	<u>25.2 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.2</u> （要支援1・2を除く）	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員 29 名（通い定員 18 名、宿泊 7 名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,403 人</u>	<u>9,991 人</u>
※延通い利用者数		<u>4,407 人</u>
※延宿泊数		<u>1,928 人</u>
※延訪問数		<u>4,362 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.3 人</u>

要介護度状況 ： 平均要介護度 2.11（要支援 1・2 を除く）

【児童デイサービス：通所 10 名、居宅保育所等訪問 0.1 名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,464 人</u>	<u>2,394 人</u>
※延べ通所利用者数	<u>2,440 人</u>	<u>2,391 人</u>
※延べ訪問利用者数	<u>24 人</u>	<u>3 人</u>

2022年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2022年度はウィズコロナをテーマに感染対策を行いながらコロナ前の状態に戻すための一年となった。11月には通所介護で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、4日間営業を停止する事もありましたが、新規・体験者数についてはコロナ前に戻りつつあり、年間平均利用者数は、48.6名と予算未達となっていますが、制限をかけていたレクリエーションやアクティビティ活動、行事等も部分的に再開しマイナス収支ながら1月、2月については予算を達成している。

<居宅介護支援>

2022年度は、常勤職員3名、(兼任1名)4名体制でスタートし、11月には1名休職、12月には職員のコロナ感染などもあり少ない職員体制の中で何とか経営を維持した状況。10月迄は包括や近隣医療機関やご家族から月平均8件の相談があり、2021年度の地道な挨拶回りや新規の相談に丁寧に対応したことが功を奏し相談件数が増加し、月平均4.9名の新規獲得実績があった。

<今後の展開>

通所介護については、営業活動や広報活動に注力し、セラピストを2名配置し幅広いリハビリのニーズに対応できる通所介護である事を発信し、一般の方やケアマネの方に施設の存在を広く知って頂く。

居宅介護支援については、職員体制を整え相談への対応、新規利用者の安定確保のために近隣の医療機関や同グループの医療機関、各区包括への広報を継続していく。担当件数も増えている為、今後は介護給付費算定に係る体制の届け出を行い対応したい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○円山HCC運営会議：毎月1回：経営課題の検討、事業方針や方向性の検討。

参加者：円山HCCセンター長、各事業役職者

○通所介護運営会議：毎月1回：感染対策、業務の効率化、経営改善にむけて検討

参加者：管理者、役職者、看護職員

○居宅介護支援事業所会議：毎週1回：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。

参加者：介護支援専門員全職員

<成果>

○新型コロナウイルスの感染対策として看護職員とも連携し業務上でのリスクの洗い出し、対策の強化を図ることができた。

○情報共有をおこなうことにより、ご利用者様や各事業所担当者に対しての早期対応、また、業務の効率化を図っていくことができた。

<次年度にむけて>

○デイサービスは集客に向けてしっかりと営業・広報活動を行うと共にリハビリニーズへの対応や接遇の強化を行う。

○介護ソフトの入替、タブレットの導入によるICT化に積極的に取り組み、業務体制の見直しと効率化、定着化を図る。

○100%稼働率達成に向けた検討。ハラスメントの根絶や労働環境の整備について検討。施設の健康課題について検討。

3. 職員状況(3月末現在)

○2023年3月31日職員状況

・管 理 者： 2名(通所介護、居宅介護支援)	・生 活 相 談 員： 2名(通所介護)
・介護支援専門員： 2名(居宅介護支援)	・看 護 職 員： 4名(非常勤2名)
・言 語 聴 覚 士： 1名	・作 業 療 法 士： 1名(非常勤)
・介 護 職 員： 21名(非常勤10名)	・事 務 職 員： 1名
・運 転 職 員： 3名(非常勤)	・清 掃 職 員： 1名(非常勤)
・合 計： 38名(非常勤17名)	

○2022年度採用・退職者状況(出向者含む)

・採用：5名(介護職員4名、運転職員1名)
・退職：4名(介護職員2名、運転職員2名)

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：介護保険と障がい福祉サービス連携研修、雇用管理者研修、採用力向上研修、神経内科勉強会、人財定着オンライン研修、ケア連事例研修、カスタマーハラスメント対応研修、若年性認知症研修、BCPセミナー、ICT導入・普及促進セミナー、中央区在宅ケア連絡会、認知症実践者研修他多数

○内部研修：(居宅)(合同)事例検討会、コンプライアンス研修、調整力研修、評価者研修、(役職者)ハラスメント研修(通所介護)感染防止内部研修、コミュニケーションスキル研修会、キャリアデザイン研修、働く女性の悩みと対応研修等

2022年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型80名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>17,553 人</u>	<u>14,845 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>56.7 人</u>	<u>48.6 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.89</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,216 件</u>	<u>1,378 件</u>
（うち介護予防）	<u>84 件</u>	<u>137 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.72</u> （要支援1・2を除く）	

1. 各部・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（6月・7月・10月・1月・3月）、評議員会（6月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（7月）
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月次確定財務諸表作成事務
- ・財務諸表等電子開示システム活用による行政等への申請（6月）
- ・各種会議への参加、他
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人による会計監査の実施（期末5月、中間12月・1月）
- ・監事監査の実施（6月・7月・10月・1月・3月）

【情報システム課】

- ・ICTロードマップ（2017年度～2023年度）の則り推進
- ・介護システム更新
- ・セキュリティ対策として外部メールのパスワードの一斉変更を実施（全施設）

【購買担当】

- ・物価上昇に伴う値上げ要請のあった業者への対応（消防設備点検、紙おむつ等については現状価格を維持）
- ・故障により重大な事故につながる恐れのある消防用設備、地中熱システム等の現状確認を行い、更新計画を作成

●総務人事部

- ・人事検討会議の開催（8回開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障害者雇用の推進と理解の浸透
- ・技能実習生・特定技能・留学生・在留資格介護の外国籍人財の受入支援

【総務担当】【総務課】

- ・処遇改善加算等の申請等の支援
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・キャリアアップ助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理
- ・時間外勤務状況の管理
- ・年次有給休暇取得状況の管理

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・研修会・受験対策講座の開催

法人本部主催のテーマ別研修会 (6回：参加者 延277名)

接遇研修会および接遇実践報告 (2回：参加者 延 71名)

新入職員研修会 (3回：参加者 延116名)

新入職員フォローアップ研修会 (3回：参加者 延 48名)

中堅管理職講座 (5回：参加者 延 48名)

ミドル層職員・シニア層職員研修会 (2回：参加者 延 31名)

受験対策講座

○介護支援専門員受験対策講座 (2回：参加者 延 18名)

○介護福祉士国家受験対策講座 (5回：参加者 延 28名)

★合計 (28回：参加者 延637名) (前年比38名減少)

内オンライン（テレビ会議・Zoom）による参加 (延588名) (前年比18名減少)

- ・ストレスチェック受検支援：受検率83.7%（前年比6.5ポイント減少）

●事業推進部

- ・新規事業開設、再編の支援
- ・老健上位類型取得・維持支援
- ・稼働率向上のためのアクションプラン作成支援
- ・次期介護報酬改定に向けた情報収集
- ・各加算の申請状況、取得状況の管理
- ・科学的介護の推進支援(LIFE関連加算の算定状況の管理)
- ・介護ロボット補助金の申請、導入支援
- ・ICT化の進捗状況の管理(介護記録の電子化、センサー、インカムの導入状況)
- ・ICT化による業務改善の推進支援(各書式の統一)
- ・特養待機者の管理・共有
- ・特養、老健における入院理由、退所理由の管理・分析
- ・相談職責任者会議の企画・開催
- ・通所介護管理者会議の企画・開催
- ・職種連携会議の企画・開催
- ・多職種合同研修会の企画・開催

【リハビリ担当】【リハビリ課】

- ・法人リハ代表者会議(11月)
- ・リハビリ課定例会議(10回/年)
- ・溪仁会グループリハ責任者会議(毎月)
- ・溪仁会グループリハ研修委員会(隔月) 委員2名
- ・老健リハ会議(6・12月)
- ・特養リハ会議(6・12月)
- ・訪問系リハ会議(8月・2月)
- ・通所介護リハ会議(7月・1月)
- ・ST合同会議(5・8・11・2月)
- ・職員の各施設への訪問：コミ美唄への訪問を実施
- ・養成校の就職説明会(オンライン・情報提供・リクルート用動画の活用等)参加(6校)
- ・養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施、リクルート用動画を施設のホームページに掲載し活用中
- ・高校生向けの修学資金貸付制度は該当者なし
- ・溪GP新人職員病院説明会(今年度は開催なし)
- ・溪GPリハ研修会(オンライン)、社福リハ職・栄養士等46名参加(11月)
- ・溪GPリハ交流研修は、今年度は中止
- ・社)溪仁会多職種合同研修会(ハイブリッド)「食事ケア」80名参加(11月)
- ・コミ白石・あさがおリハ研究発表会(3月に4日間・計17演題)
- ・施設間の異動や人員の調整(異動者なし)
- ・言語聴覚士派遣(2回/週～1回/月):敬樹園、月寒、手稲、きもべつ、るすつ、コミ美唄、コミ岩内
- ・作業療法士派遣(1回/月):きもべつ、るすつ
- ・療法士派遣【コミ美唄:2名/週(9～11月)
- ・生活機能向上連携加算/毎月
特養:敬樹園、月寒、手稲、菊水、きもべつ、るすつ
DS:円山、手稲つむぎ、手稲織彩、月寒
各連携セラピストが電話やオンライン等、一部対面により実施
- ・喜茂別町地域支援事業の支援(適宜)
- ・ST合同会議から、MASA、MMASA(嚥下障害アセスメント)の運用開始
- ・研究発表(溪仁会グループ研究発表会:4演題)
- ・法人リハ職の新人研修プログラム(オンライン/対面)を実施:対象職員3名、4～5月に計33コマ実施
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告による各施設・事業所のリハ職の常勤換算数と情報収集
- ・リハ関連加算、LIFE関連取得の推進
- ・訪問系リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大と臨床実習指導者講習会に参加(2名)
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、地域ケア個別会議、地域ケア推進会議等への派遣

(コミ白石17名、コミ岩内30名、コミ八雲2名、延49名)

- ・法人リハ職の理念・行動指針を策定

【栄養管理課】

- ・加算取得の為管理栄養士2名体制に向け6名新規採用(敬樹園・月寒・きもべつ・手稲・コミ白石・コミ美唄)
- ・中途退職・産休代理要員の調整(カームヒル・菊水)
- ・介護報酬の栄養関連加算取得の把握(各施設からの月報取り纏め)
- ・購買評価により給食委託業者の評価を共有化
- ・利用者満足度向上の為のアンケート調査の実施及び結果の横展開
- ・リハ・栄養合同研修会(11月)事例発表
- ・多職種での食事ケアの連携を調整(研修会後)
- ・地域へのアウトリーチ、カームヒル西円山での栄養教室開催支援(3回/年)
- ・コロナ禍での各施設入所者の栄養状態の把握
- ・栄養管理者会議、5月全員集合、11月オンラインにて情報共有
- ・本部広報活動への行事食写真の提供
- ・在宅業務に関わるにあたっての委託業者業務サポート実務調査
- ・栄養補助食品の統一購入による価格調整
- ・スキルアップの為の研修情報提供
- ・災害/感染症対策の備蓄食運用状況の確認
- ・新年度委託契約に関する各施設の委託業務内容調査
- ・施設栄養士へのサポート(相談窓口)

【介護課】

- ・介護職員の採用活動支援(養成校との連携、実習生の受け入れ強化)
- ・介護人財定着支援
- ・介護職員の施設間交流の企画・実施
- ・介護リーダー職研修の企画・実施
- ・介護責任者会議の企画・開催
- ・ICT化による介護現場の生産性向上推進
- ・介護職の専門性を確立するための取組支援
- ・新入介護職員研修の企画、実施
- ・介護職キャリアラダーの作成、運用支援
- ・認知症実践リーダー研修の受講状況の管理
- ・介護関連加算の取得状況の管理

●業務管理部

- ・監督官庁実地指導(監査)立会い(3事業所)
- ・事業所事故報告確認(監督官庁報告168件)、年2回(上半期・年間)集計結果を報告・水平展開
- ・KMS推進支援(KMS会議参加・KMS内部監査対応・ISO維持更新審査対応)
- ・研修支援(介護職責任者会議)
- ・苦情対応に関する支援(対応相談、顧問弁護士仲介)
- ・事業所苦情・要望確認(年間35件)、年2回(上半期・年間)集計結果を報告・水平展開
- ・第三者委員との情報交換(四半期ごとに報告)
- ・訴訟に関する支援1件(和解にて終了)
- ・法令遵守に関する支援(運営基準見直しへの対応:内部監査訪問、自己点検依頼)
- ・ハラスメント根絶に関する取り組み(第2回パワハラ実態把握アンケート調査)
- ・新型コロナウイルス感染症に関する事項(マニュアル更新、感染情報収集、グループ対策会議、クラスター対応)
- ・感染対応支援チームの活動(5拠点の平時訪問確認、7拠点の感染初動対応訪問確認)
- ・業務管理体制に関する自主点検報告2件(障害者総合支援法、介護保険法)